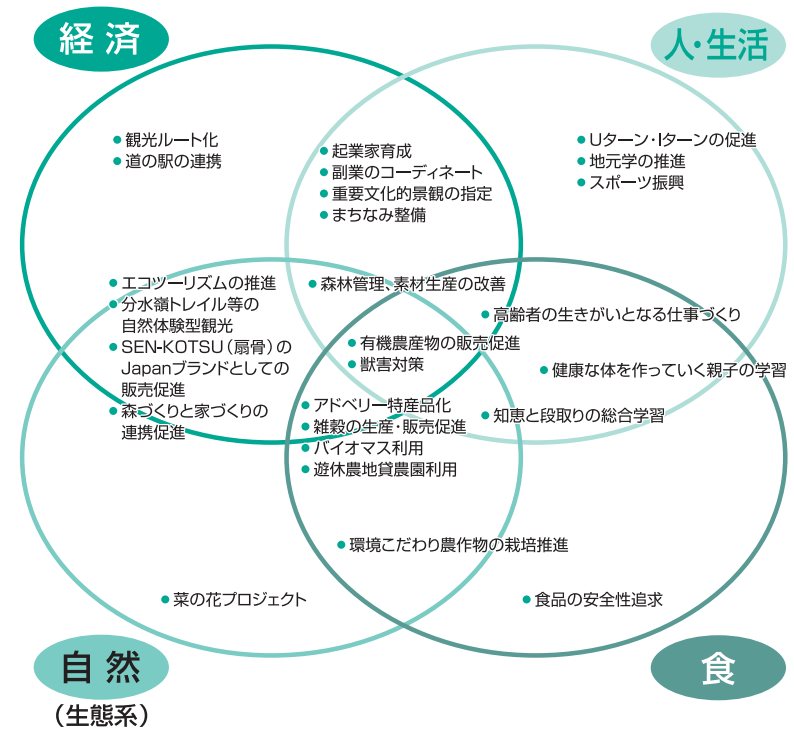


# 人と人

**わさとの郷のイメージ図**  
 (それぞれの分野のつながりによって、ひとつの「環」になります)



## 「環の郷」づくりの実践・・・「つなぐ」

私たちの暮らしの中に、より具体的に環の郷づくりの芽を広げていくために市では今後、次のことを進めていきます。

- 人のつながり**  
コミュニティ活動の活性化、小さな仕事づくり、スポーツ振興、防災・防犯・福祉体制づくり、中心市街地活性化など
- 自然とのつながり**  
6次産業化の推進、森林再生、エネルギーの創出、エコツーリズムの推進、自然環境保全、生物多様性の認識、特産品開発など
- 未来へつなぐ**  
重要文化的景観の指定、食育の推進、特色ある教育・人づくりなど

これまでの積み上げられた暮らしや地域の繋がりを再生し、環となつて循環する仕組みを構築すること。また、このような考え方を基本として資源の循環や産業の連環を創り上げること。そして、地域に住む人達が力を合わせて次世代に引き継いでいくこと。市では、これらのことをまちづくりのテーマとした「環の郷」たかしまを目指していきます。

なお、来月号から、皆さんにより詳しく市のまちづくりビジョンをお知らせする、シリーズ「環の郷」の連載を始めます。繋がること、そこから生まれること一緒に考えてみましょう。

(企画調整課)

## 高島市を地域研究活動の拠点に！ 「環の郷」交流・研究センター秋まつり

学生等による地域調査・研究活動の拠点として本年7月に市が開設した高島市「環の郷」交流・研究センターで、10月16日に地域住民や学生等、約90人が集まり「環の郷」交流・研究センター秋まつりが開催されました。



この秋まつりは、同センターを使用して市内各地の地域研究・調査活動を展開している滋賀県立大学と京都精華大学が合同で開催したものです。滋賀県立大学からは、地域に住む様々な人の思い出を1枚の絵屏風にする「心象絵図」の手法で作成された作品展示と取り組みの報告が行われました。京都精華大学からは、地域を歩き人の話や現場の写真をポスターにまとめる地元学の手法で作成した作品展示と取り組みの報告が行われました。

また、地元学の舞台となったマキノ町牧野、今津町三谷や新旭町針江の皆さんの取り組み内容も発表されたり、学生側から、地域の課題を大学の調査活動等の中で解決していく活動を展開することとした「高島学生フロンティア計画」が発表されるなど中味の濃いイベントとなりました。

まつりの最後には、針江生水の郷委員会の皆さんが準備された郷土料理や餅つきなどを通して、両学および地域が互いに協力し合い、つながりを広げていくための交流を図りました。



### ◆次回は…

#### 「環の郷」交流・研究センター雪まつり

●雪と暮らしの関係を探ります。  
 秋まつりの次は雪まつり。両学の地域学調査で集めた雪とくらしのかかわりや冬ならではの暮らしの工夫などについて勉強します。お楽しみに。

予 日時：2月5日(日)  
 告 場所：高島市「環の郷」交流・研究センター

# 人と自然が繋がるまち

## わさとの郷 たかしまを 目指して



畑の棚田での収穫

◆つなぐ  
 高島市が発足してまもなく丸1年が過ぎようとしています。6つの町と村が合併してできた滋賀県一広い面積を持つまち高島。合併前のそれぞれのまちや地域の良さを残しつつ、大きな自治体となったメリット(利点)を活かす高島独自のまちづくりのテーマとして環の郷という表現が生まれました。

今月号では、市の総合的なまちづくりのテーマ「環の郷」について説明します。

◆つなぐ  
 高島市は、6つの町と村が合併して1つの市になりましたが、住んでいるすべての人が新しいまちの住人として、より良い地域社会を構築していくことが、真に1つになったと実感できることではないでしょうか。

そのために、身近な、小さなつながりに目を向けていくことが必要だと考えられます。人と人、人と自然、地域と地域がつながっていかねばなりません。小さくても固いつながりをたくさん集めて地域に広げ、地域全体が大きくなつた中にある安心感を作り出していきたくと考えています。

◆まわる  
 こうしたさまざまなつながりの中で、お金やモノや自然の機能などが健全に回っていくことが、豊かな地域社会であると考えています。そのため、人のつながりや人と自然との関係の中で、みんなで小さな取り組みをはじめていかなければなりません。人でも自然でも、相手を思いやり働きかけていくことが、「まわる」社会の原動力となります。

◆かえる  
 つなぐを強固にし、その中でものごまわる仕組みが機能することで、私たちにとてもさまざまな恩恵や価値観などというかたちでかえってきます。人や地域や自然とのより良い関係の中で、誰もが互いに存在することへの役割と恵みを感じ取れる社会が「環の郷」です。